

フィールドで考える 持続可能な暮らしと社会： 黄土高原農村の自然・文化・国際協力

2020年11月4日（水）16:50～18:40

zoom開催・定員300名 ※ 途中参加・退出可能



趣旨説明・「SDGsと黄土高原」

原 裕太 16:50～17:05

モデレーター

総合文化研究科・教養学部 附属教養教育高度化機構 特任助教

「黄土高原における草の根環境協力の歩み」

高見 邦雄 17:05～17:45

特定非営利活動法人「緑の地球ネットワーク」副代表

発起人のひとりとして、1992年に「緑の地球ネットワーク」設立に参加。1994年から事務局長。毎年100～120日間、中国・山西省の農村に滞在し、植林活動や貧しい農村での生活支援を行っている。活動は国内外で高い評価を得ており、2019年にはNHK world-JAPANの「Side by Side」等でも特集番組が組まれた。これまでに、日本政府「外務大臣表彰」（2012年）、国際協力機構 JICA「理事長賞」（2014年）、中国政府「国家友誼奨」（2001年）、大同市政府「環境緑化奨」（2002年）、大同市荣誉市民（2006年）他、数々の賞を受賞。

主な著書：『ぼくらの村にアンズが実った』（日本経済新聞社 2003）他。

「切り紙アート『剪紙』に表された 黄土高原の暮らしとコスモロジー」

丹羽 朋子 17:45～18:25

国際ファッション専門職大学講師・特定非営利活動法人「FENICS」理事

専門は文化人類学。国立民族学博物館共同研究員。2008年より、中国の農村女性の手仕事や現代美術家の芸術実践について、黄土高原農家の伝統住居（窑洞）に寄宿する長期現地調査を実施。フィールドワークを基に、全国各地の美術館やギャラリーで、民族誌的インスタレーション展示（「窓花—中国の切り紙」展 他）を共同制作している。

主な著書：『窓花／中国の切り紙—黄土高原・暮らしの造形』（共著、エキスプランテ 2013）、『フィールドノート古今東西』（共編、古今書院 2016）他。

◆ 質疑応答 18:25～18:40

申込フォーム（締切 11月3日）

<https://forms.gle/9BwPbnByXjCB73eF9>

お申込み頂いた方には、前日までに会場URLをお送りします。

